

【 第32回オリンピック(東京2020) 】

2021年7月24日～8月8日 日本・東京

試合結果報告 7月30日 (金)

JAPAN	vs	バーレーン
17	1st	16
13	2nd	16
	ex	
	ex	
30	TOTAL	32

個人得点

No.	NAME	1st	2nd	ex	ex	TOTAL
10	杉岡 尚樹					0
12	岩下 祐太					0
13	笠原 謙哉					0
15	部井久アダム勇樹	2	2			4
18	成田 幸平					0
19	徳田 新之介	1	1			2
20	渡部 仁	1	1			2
21	土井レミイ杏利	1	3			4
22	坂井 幹					0
25	元木 博紀	3	4			7
31	吉野 樹	6				6
33	東江 雄斗		1			1
38	水町 孝太郎	3	1			4
43	吉田 守一					0
TOTAL		17	13	0	0	30

戦況

アジア大陸チャンピオンのバーレーンと対戦。ベンチ入りのメンバー構成は前節のエジプト戦と同様。日本の攻撃は、プレーメーカーに水町、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。守備は、GK岩下、笠原と成田でセンターDF、2枚目DFに渡部と水町、1枚目DFに元木と土井を配置した「6-ODF」でゲームスタート。バーレーンは「5-1DF」でスタート。コンビネーションプレーから、水町のミドルで先制。バーレーンもHusainのリードから得点を重ねていく。日本も吉野のミドルやカットイン、土井、元木のサイドなどで加点していき、一進一退の攻防が続く。28分に部井久のシュートブロックを土井が繋ぎ、最後は元木が決めて16-15と1点をリードを奪うと、17-16で前半を終了する。

ハーフタイムでは、クイックスタートを仕掛ける際の7人攻撃のポイントやディフェンス時の約束事の確認をして後半に臨む。

後半も序盤は一進一退の攻防が続くが、後半5分過ぎ、日本は、バーレーンが一人退場した際のパワープレーを得点に結び付けられず、逆にインターセプトから速攻に持ち込まれて逆転を許してしまう。その後もパワープレーの機会に得点出来ず、逆に日本は退場者を出してしまう。後半15分、水町の個人技で同点に追いつき、その後は元木が速攻を繋ぎ、部井久が決めて26-25と逆転に成功するが、その直後からバーレーンに3連取され、26-28と2点のリードを許す。同点のチャンスもあったが、バーレーンGK・Mohamedの好セーブに合い、チャンスを逸してしまう。残り30秒、2点差の状況でタイムアウトを請求し最後の攻撃に賭けるが、シュートは決まらず、30-32で試合終了。

アジアチャンピオンとして、オリンピックに初出場したバーレーン。日本は、バーレーンに対して、アジア選手権2020、世界選手権2021で連勝し、オリンピックでも勝機を窺っていたものの、悔しい敗戦となった。現在、まだベスト8進出の可能性は残している。予選リーグ最終戦のポルトガル戦に向けて、詳細な対戦国分析を進め、勝利で予選リーグを終えたい。

報告記入者 :

舍利弗 学